

令和7年度 学校関係者評価書(様式)

評価項目		本年度の活動(具体的な手立て)と指標	成果と課題	今後の改善点	学校関係者評価
学 力 向 上 × I C T 活 用	授業改善・基礎学力の向上 ・ICTを活用した授業実践 ・全教員の研究授業の実施 ・家庭学習の定着(chrome活用) 【指標】 児童アンケート②「学校の勉強はわかりやすい」90%以上	○児童アンケート②94.2% 昨年度比+0.2% →「めあて(見通しを持つ)・自力解決・学びあい(共有・比較検討)・まとめ(整理)・振り返り」の学習過程の流れで授業実践した。 →オクリンプラス、スプレッドシート等で互いの考えを共有しやすくした。 →視覚的支援や操作活動(NHK for school・デジタル教科書・写真・スライド資料等)を取り入れた。 →家庭学習強化週間の取組に家庭の理解と協力が一定数得られている。 ▲基礎学力定着に向けた効果的な取組の継続が必要。	今後も「めあて～自力解決～学びあい」「個別最適な学び」と「主体的な学び」を意識しながら、児童が活動の見通しをもって取り組めるよう授業研究・授業改善を行っていく。また自力解決が困難な児童に対して思考の補助となるもの提示などの児童も学習に向き合えるような手だてを工夫していく。 学習は積み上げなので、低学年からの系統性を図り、どの子にも該当学年で身につけさせるべき力(基礎学力)をしっかりつけさせていく。	・アンケートの結果も94%以上が連続しており、このまま続けて取り組んでいったほしい。 ・今の方針の問題なれば続けてほしい。一定数得られないことが見られた時は方向修正を望む。 ・肯定的な子どもが多く、わかりやすいことが大前提なので、ICTの活用は有効だと思うが、書く力が落ちないか気になる。	
	いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応 ・定期的な会議開催 ・全職員での見守り、情報交換 ・関係外部機関との連携 【指標】 児童アンケート ①「学校で勉強したり、友達と遊んだりすることが楽しい」 ②「家族や先生に自分のことを話したり、相談したりすることができる」(85%以上)	○児童アンケート①97.1% 昨年度比+2.2% →会議等での情報交換だけでなく、日常的に全職員(介助員・支援員等も含む)での情報収集・共有により、トラブル等早期発見・早期対応を行い、児童の安心できる居場所作りに取り組んだ。 →SC・SSW・行政等とも連携しながら児童(保護者)支援を行った。 ▲児童アンケート②82.5% 昨年度+4.7% →昨年度よりは増加しているが、こどもの声や思いを拾う機会・方法を今後も検討していく。 ▲不登校(R6年→R8年 12月段階) 30日以上4人→3人 10日以上2人→6人 →30日の人数は減っているが、10日以上になると増えている。欠席理由を精査する中で欠席理由を「その他」から「不登校」と変更した。体調不良だけでなく、家庭の都合等で安易に欠席する傾向がある。家庭との連携も必要である。	今後も気になることをこまめに職員で共有し、ケース会議等を開催し、対策を考えていく。 家庭との連携が必要になってくるため、保護者の思いに耳を傾けながら、SCや関係機関につなげる等家庭支援も視野に入れていく。 ひとりひとりの児童に丁寧に寄り添い、不安や悩み等、自分の思いを出しやすい環境づくりや手だてを工夫する。	・②の数値が多くなったことに安心する。 ・アンケート①の結果で、97%が「学校が楽しい」と答えており、現在の取組で問題なしと思う。 ・長期不登校の原因が学校側にあるのか・家庭側にあるのか、解析できれば対応策も考えやすいと思う。 ・学校家庭のコミュニケーションをより多くとると不登校の改善につながると思う。 ・家庭内で親子のコミュニケーションが取れているのか不明。親御さんが忙しいを理由に子どもの話を聞いていないこともあるのでは。 ・①のアンケート結果を見る限り、家庭の問題で登校できない子もいるように思われる。保護者には行政からの助言支援が必要だと思う。	
非 認 知 能 力 育 成	「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」を大切にしたい取り組み ・伝え合う活動・縦割り班活動・体験活動 ・読み聞かせボランティア ・学校図書巡回員の活用 【指標】 児童アンケート ⑥「自分や他の人を大切にしている。」 ⑦「最後まであきらめずにとりくむことができる。」 ⑧「してはいけないことをがまんすることができる。」 ⑨「自分にはよいところがある。」(85%以上)	○児童アンケート⑥97.1% ⑦89.3% ⑧87.4% ⑨88.3% →研修部を中心に伝え合う活動を重点においた授業研究を行った。 →授業のなかで自分の考えや学習のまとめとしての成果物等を発表する機会を積極的につくったことで、友だちから努力を認められる機会が増えた。 →運動会・業間遊び・縄跳び大会等で縦割り班を行い、活動のふりかえり(他学年からの評価)をすることで自分や友だちのよさを見つけことができる児童が増えた。 ▲児童アンケート⑤「本を読むことが好き」(68.9%) →高学年の児童の読書時間の確保が難しかった。並行読書や学校図書巡回員、図書館の活用など児童が本に触れ、好きになる機会を意図的に持つ必要がある。	今後も集会や行事等さまざまな教育活動とおして、めあてを意識し、ふりかえりをする中でお互いの良さや頑張りを認め合う時間をとる。 授業においても自分の考えを伝え合ったり交流したりする場面を多く設定する。 縦割り班活動等他学年との交流の機会を多くもち、学級だけでなく、他学年から認められる場面を設定し、今後の自分のなりたい姿を意識させる。 読書習慣についてはすきま時間等の「読書タイム」の確保、また読書週間の取り組み方を工夫しながら家庭(保護者)も巻き込んだ読書活動の推進を進めていく。	・⑧⑨このように答えられることが素晴らしい。 ・すべての指標以上で現在の取組でいいと思う。公民館でも子どもたちが本に興味をもつイベントをやっていききたいと思う。また、相談に乗っていただく。 ・こどもたちは家に帰ると勉強や読書よりもゲームにいつってしまう傾向があると思うが、学校から帰ったらまずは勉強・読書を勧めるしかないかと思う。 ・PCやスマホ等の影響が大きいのでは。 ・登校時でも高学年が低学年に寄り添って登校する姿が見られる。大変強くこれを引き継いでいくことも非認知能力を高めていくのに役立つと思う。 ・家読は親でもできると効果があるのではないかな。	
	地域連携・地域ぐるみの教育 ・地域の方など外部人材を活用した取り組み(各学年各学期1回以上) ・保護者、地域住民参加型の避難訓練・防災学習の実施。(年3回) 【指標】 児童アンケート⑭「地域にでかける活動や地域の方を招いた活動は、ためになり楽しい」(90%以上)	○児童アンケート⑭98.1% 昨年度+6.6%) →登下校の見守り、算数・家庭・図工・生活など学習支援、土曜日や長期休業中の校外活動等、校外外で日常的に地域の方や学校支援ボランティアの方に協力いただき、こどもたちは、さまざまな経験をすることができた。他地域に比べ、地域の行事が多く、こどもたちもそれを楽しみにして過ごすことができている。 ○保護者・地域住民参加型の避難訓練(津波避難訓練・屋上避難・引き渡し訓練・防災講演会)・親子防災イベント・起震車体験 →地域・PTAの方とともに防災学習を行い、学校・地域の課題を共有することができた。	地域の方と一緒に活動することや支援をいただくことは児童の育ちに大きな影響を与えていると感じている。児童にも地域の方に支えられながら、学校生活を送ることができていると実感させるとともに児童が地域にかかわっていくことも考えていく。取り組み方は工夫しながら、実施可能な方法で地域の方と連携して進めるようにしていく。 保護者の連携については、学校だよりやtetoru配信等で呼びかけをし学校・地域行事、活動に積極的に参加してもらるように工夫していく。	・ほぼ全員が「ためになり楽しい」と思ってくれている。今の取組でOK。マンネリにならないように。(こいのぼりを各家庭から集めて一斉に小学校であげるイベントをしてみたい) ・海岸等の野外授業にも地域の方に声をかけていただき、参加見守りのお手伝いできればと思う。 ・現状維持でよい。もっと地域の方々に興味をもってほしい。積極的に参加してもらいたい。 ・この地域の学校行事・地域行事への参加は災害時に大変役立つと思う。日常的なかかわりが大切だと思う。 ・学習ボランティア・各行事など、こどもにかかわることが地域の人にも楽しみなっていると思う。お互いにそれがつたわっているのではないのでしょうか。継続できるとよい。	
学 校 に お け る 働 き 方	総勤務時間の削減 ・会議終了時刻を伝える。(60分以内終了の会議80%以上) ・C4th連絡掲示板の活用 ・定時退校日の設定(月2回) ・年休取得推奨(平均2.3日以上)	○時間外勤務時間 昨年度より3割削減 年休取得得平均25.4日 定時退校日(定時退校できた職員)99% →提案内容等を二部会等で検討した上での提案、連絡事項などはC4th等の掲示板等を活用することで総勤務時間の削減できた。 ▲職員会議は行事等の内容について提案・検討することが多く、60分以内で終了することは難しかった。ひきつづき提案の仕方等検討する必要がある。	会議の内容等については、各部会でしっかり検討して提案することや事前に協議内容を周知しておくことでさらに時間の短縮ができる。また、引継ぎシート等を活用して、スムーズに作業等にかかれるようにする。 他校の好事例等の情報収集に努める。	先生の仕事は大変だと思っている。先生が悩みを相談しあう時間はしっかり確保していただきたい。 ・働き方改革については、我々が何もうことはありません。先生方の大変さは承知している。 ・先生方の仕事の量の多さには身体的なことを心配する。仕事はほどほどに、自分の健康もたいせつに。	
業 務 改 善	・会議・打合せ等の回数削減 ・成績処理期間の短縮校時設定	○職員会議年15回を13回に削減 ○学期始め・末 短縮校時 年10回実施 →事務処理や教材研究等や、学期始め・末の成績処理の時間を確保することができた。 ▲単級であるため担任が学年のすべての事務処理を行うこととなる。他校等の好事例等の情報収集を行い、業務改善につなげていく。	配付物を精選し、必要なものだけを紙媒体で配付し、それ以外はPDF化して端末に配信する。 資料・教材等学年別、教科別、単元別にするなど整理して収納し、検索しやすい仕組み立てておく。 他校の好事例等の情報収集に努める。	・単級であるので苦勞も多いと思います。他校の好事例の真似もよいと思う。 ・少しずつ効率化をはかり、業務短縮・改善を行えば教員不足につながると思う。 ・会議の回数については特に問題ない。	

NO.